



2014年2・3月号

# 夫に相談するとき、スムーズに話がまとまる方法

## 夫の立場で考えてみると、適切な表現が浮かんできます

どうして夫に相談すると、スムーズに話が進まないんだろう、と思っただことはありませんか？ また、「何が言いたいのかわからない」と夫に言い返されたことはありませんか？ 夫婦の会話がかみあわないのは男性と女性の違う生き物だから、という話も聞きますが、私は男女の差異よりも、相手の立場に立って考える力の有無、つまり他者意識の問題ではないかと思えます。

### 相手の気持ちが伝わる言葉の選び方があります

夫婦で問題を語り合うためにまず考えてみてほしいのは、夫が同意しやすいような話の筋道です。そして、ほんの少し言葉遣いを変えてみることをすすめます。では、右の会話を参照しながら、夫の立場になって考えていきましょう。

①のように、いきなり「相談がある」と切り出されたら、誰でも「なん

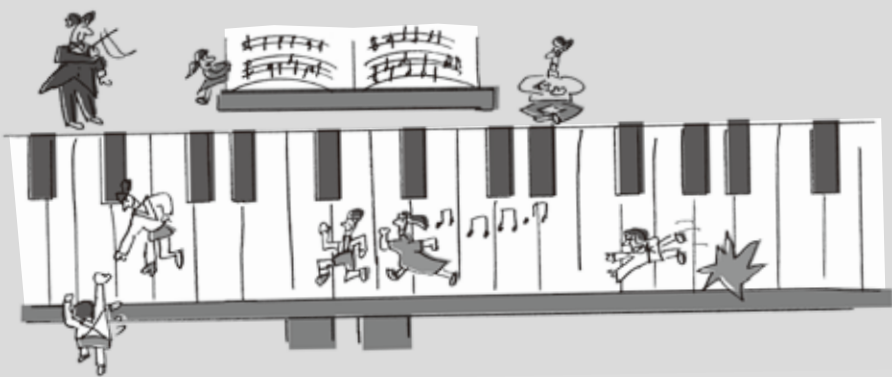
だろう？」と不安になると思いませんか？ 夫も、そこで身構えてしまうのです。つい口にしがちですが、夫婦の会話の導入には、最も不向きな言葉だと思ってください。

また、②の「ピアノが楽しくない」という表現では、問題のありようが曖昧で実態が見えてきません。夫は「なんだかややこしい話かもしれない」と、さらに気持ちを頑なにしています。③のように「問題は、ピアノの教室にある」と言えば、より伝わりやすいはず。そして、問題の論点として、④のとおり、「教室のためにピアノを嫌いにさせたくない」と提案するのです。そのうえで⑤のように、子どもも望んでいる解決方法を伝えれば、とりあえずは夫も妻の言い分について、冷静に耳を傾けてくれるでしょう。⑥のように、解決方法のネガティブな部分＝月謝が高くなるという情報もきちんと伝えてください。そして、ここまで話してから、夫の意見を求めるのです。本当

に大切なのは、夫が妻の意見に同意するかどうかだけではなく、夫婦の会話としてとても気持ちよくやり取りができて、しかも、問題の解決についてお互いに共通の意識が持てるかということです。

### 意見をぶつけ合うのではなく、解決方法を一緒に探すこと

してはいけないのは、夫の言葉に対して⑦⑧のように、否定したり反対する言葉で返し続けること。会話が言い争いのようになってヒートアップしてしまうと、問題文の斜線部分のやり取りのように、お互いが言いたいことを言うだけになってしまい、話し合いにならなくなります。「なぜ、そうしたいのか」という点を論理的な話の組み立てで説明すれば、夫にも「いるいる」と真剣に考えたうえで話しているのだ」ということがわかり、きつと聞く態度も変わりますよ。



## 夫に相談するとき、スムーズに話がまとまる方法

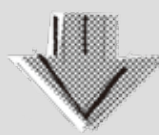
今月のお題  
伝える技術2



娘(小2)のピアノ教室を変えたいのですが、もともと習い事には乗り気でない夫に、どう伝えたいものやらよくわからないです。月謝は今の倍以上になります。

幼稚園から通っていた音楽教室で、そのままピアノを教わっている娘。最近、先生が変わりレッスンが楽しくないといいます。近所評判のいい教室の発表会を見に行きたいところですが、月謝は今の倍以上になります。

- 私「ちょっと、アヤのピアノで相談があるんだけど。最近、ピアノが楽しくないらしいよ」
- 夫「無理に続けさせなくてもいいんじゃないのか」
- 私「そうじゃなくて、先生が合わないの」
- 夫「小学生のくせに、生意気なことを」
- 私「でも、近くにいい先生がいて、個人で教えてる方なんだけど、そっちに通わせたらどうかなって」
- 夫「個人の先生なんて、高いだろうね」
- 私「発表会も行ったけど、すごく楽しそう」
- 夫「おまえ、相談じゃなくて、もう決めてるな。オレは反対だからな」



問題はピアノではなく、教室にあることを伝えましょう。

- 私「おえ、聞いて。最近、アヤったらピアノの教室が楽しくないって」
- 夫「教室が？ 無理に続けなくてもいいだろ」
- 私「家での練習はちゃんとしてるんだけどね。教室の先生が変わって、教え方がちょっとアヤにはきついらしいのよ。これが原因で、ピアノそのものを嫌になっちゃったら、もったいないなあと思ってる」
- 夫「まあ、そうか……」
- 私「そう思って、近所評判のいい先生の教室の発表会に行ったら、曲目とか自由な感じでとても楽しそうなの。アヤも目をキラキラさせちゃって」
- 夫「へえ、そうなの」
- 私「ちょっと月謝は高くなるんだけど。ピアノって先生がいいとそうなるのよおえ。でも、ピアノは続けさせたいし……、どうしたらいいと頭うごめ」
- 夫「アヤのやる気が大切だからなあ、前向きに考えてみるか」

# ママのための日本語トレーニング vol.8

論理アタマを育てよう！



ただ、子どものことで話をしたかったけなのに、夫はだんだん不機嫌に。気がついたら険悪な空気になってしまった。こんな経験はありませんか？ 原因を探ってみると、会話の切り出し方や言葉の選び方に解決策がありそうです。

出口 汪 てぐち・ひろし  
大学院生時代に予備校の教壇に立ち、独自の論理的解法を駆使した講義でたちまち人気を博し、現代文のトップ講師として30年以上にわたり、教え続ける。2002年に自らの経験の集大成として「論理エンジン」を開発。執筆した受験参考書の売り上げは累計600万部を超える。小学生向けの「出口汪の日本語論理トレーニング」シリーズ(小学館)が好評発売中。